

江戸開城（松口月城）

関東 平野 錦旗 翻る

官軍 堂々 都門に 追る

海舟の 機略 大勢を 知り

又 見る 南洲 一諾の 尊きを

江戸の 開城 歴史に 輝く

両雄の 面目 躍如として 存す

関東平野錦旗翻 官軍堂々迫都門

海舟機略知大勢 又見南洲一諾尊

江戸開城輝歴史 両雄面目躍如存

解説 江戸開城について考えを纏めた詩。

語釈 ※江戸開城 慶応四年に行われた新政府軍への江戸城明渡し。

※関東平野 関東地方の主要部を占める日本最大の平野。 ※錦旗 錦の御旗。 勅命によって派遣される征討將軍の標識として用いた。 ※翻 旗や

幟などが風にひらひらとする。 風になびく。 ※官軍 朝廷方の軍隊。 ※都門 都の入り口。 江戸城。 ※機略 臨機応変の計略。 機知。

※大勢 世の中のみならず、天下の趨勢。 ※一諾 同意、納得などをすること。 ※両雄 勝海舟と西郷隆盛。 ※面目 世人に対する体面や名譽。

また、世間からの評価。 ※躍如 いきいきとして目の前に見えるさま。

通釈 関東平野に官軍の錦の旗が翻る。官軍は堂々と江戸城の前に迫った。江戸開城を求める官軍。勝海舟はこの戦争の大勢を考え、西郷隆盛に

江戸幕府に携わる者達の事を含め、条件を示すと西郷は勝の申し出を一諾。この江戸城引き渡しは歴史に刻み込まれ、両雄の面目も保たれたであ

ろう。